

## 平成26年度第1回流山市史編さん審議会会議録

- 1 日時 平成26年11月26日(水)  
午前10時から午後0時05分まで
- 2 場所 流山市文化会館第1会議室
- 3 出席者等  
(審議会委員)  
相原正義委員 青柳孝司委員 小川浩委員 小嶋尚委員  
下津谷達男委員 清藤一順委員 中村智委員 堀部昭夫委員  
村田一二委員 山田友治委員  
(事務局)  
後田教育長 小川図書・博物館長 須田図書・博物館次長  
小栗図書・博物館次長兼学芸係長  
川根主任学芸員 金子主任学芸員  
廣瀬臨時職員 笹川臨時職員  
欠席：直井生涯学習部長  
(傍聴者)  
なし
- 4 議題
  - (1)平成26年度流山市史編さん事業について
  - (2)『ふるさと流山のあゆみ』の経過と現状について
  - (3)「第1章 掘り出された流山」の原稿について
  - (4)「第2章 古墳と古代の村」の原稿について
  - (5)「第6章 流山の明治・大正・昭和」のコラムの原稿について
  - (6)「第7章 変わりゆく流山」の原稿について

(須田次長)

本日は大変お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

初めに、流山市史編さん審議会委員の委嘱状を交付いたします。

## 《教育長から委嘱状交付》

それでは、ただいまから平成26年度第1回流山市史編さん審議会を開催いたします。本日、司会進行をさせていただきます、図書・博物館次長の須田でございます。よろしくお願いいたします。

ただいまから、平成26年度第1回流山市史編さん審議会を開催いたします。会議の開催に先立ちまして、本日配布している資料を確認させていただきます。

まず、会議次第及び会議資料1部と委員名簿1部を、お手元に配布させていただきますいております。また、「平成26年度流山市の教育」「加東割遺跡3次」「流山市史研究第2号」「流山市立博物館調査研究報告書29流山の地名を歩く」を各1部配布させていただきますいております。

それでは、次に進めさせていただきます。本審議会は、平成26年度になり初めての会議の開催となりますので、図書・博物館長から職員の紹介をさせていただきます。

## 《館長から職員紹介》

(須田次長)

それでは、次第に添って進行させていただきます。流山市教育委員会後田教育長からごあいさつを申し上げます。教育長よろしくお願いいたします。

(後田教育長)

ただいま御紹介をいただきました教育長の後田でございます。

本日は御多忙中また足元の悪い中、平成26年度第1回流山市史編さん審議会に御出席をいただき、有難うございます。

日ごろ審議会委員の皆様方には、本市の教育行政はもとより、市政全般にわたり多大なる御協力をいただき、感謝申し上げます。

皆様には先ほど委嘱状を交付させていただきましたが、委嘱につきましては、10月21日の教育委員会議の議案として提案され、決定されましたことを御報告申し上げます。

本日は2名の新任の方がいらっしゃいますが、本審議会委員を長く務めていただいております委員の中に表彰された方がいらっしゃいますの

で、御紹介させていただきます。

まず、小疇 尚（こあぜ たかし）委員でございます。小疇委員は長らく明治大学で教鞭をとり、本審議会委員は今期で3期目となりますが、本年春の叙勲で教育功労の功績によりまして、「瑞宝中綬章」（ずいほうちゅうじゅしょう）を受章なさいました。おめでとうございます。

つづきまして、小川 浩（おがわ ひろし）委員でございます。小川委員は文化財審議会委員が12期目、また本審議会委員は7期目となりますが、その長きにわたる功績によりまして、「文化功労者」として流山市表彰を受賞されました。おめでとうございます。

さて、本日の会議でございますが、皆様方には市史編さん審議会委員を新たに委嘱させていただきましたので、まず会長及び副会長の選出をお願い申し上げます。

つづきまして議事でございますが、今年度に刊行を予定しております『ふるさと流山のあゆみ』の原稿をお示しいたしますので、委員の皆様方に充分御審議いただき、忌憚のない御意見を賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、委員皆様方の御健康と御活躍を御祈念申し上げ、簡単ではございますが、ごあいさつとさせていただきます。

（須田次長）

ありがとうございました。次に、流山市史編さん審議会委員に委嘱されました皆様のご紹介をさせていただきます。名簿順に述べさせていただきます。

#### 《館長から委員紹介》

##### 1 相原正義（あいはら まさよし）委員

流山市向小金にお住まいで、現在、聖徳大学・中央学院大学で講師をなさり、また地理教育研究所所長をされていらっしゃいます。御専門は地域史で、東葛地区を題材にした著書を執筆されております。

市史編さん審議会委員は、3期目でございます。

##### 2 青柳孝司（あおやぎ こうじ）委員

流山市平和台にお住まいでいらっしゃいます。公募により、委嘱をさせていただいた委員でございます。

市史編さん審議会委員は、1期目でございます。

3 小川浩（おがわ ひろし）委員

野田市中里にお住まいで、元昭和女子大学の講師でいらっしゃいます。御専門は、民俗学・風俗史でございます。民具等にも造詣が深く、流山市文化財審議会委員もされていらっしゃいます。

市史編さん審議会委員は、7期目でございます

4 小疇尚（こあぜ たかし）委員

流山市江戸川台にお住まいで、明治大学文学部では長らく教鞭を執っておられ、現在は明治大学名誉教授でいらっしゃいます。御専門は、自然地理学・地形学で著書も多数執筆されています。

市史編さん審議会委員は、3期目でございます。

5 下津谷達男（しもつや たつお）委員

野田市上花輪にお住まいで、元國學院大學女子短期大学教授でいらっしゃいます。また長く野田市郷土博物館の館長をなさっていました。御専門は考古学で、文化財審議会では本市の他、野田市・鎌ヶ谷市などでも委員をされています。柏市史や鎌ヶ谷市史の編さんにも携わっておられます。

市史編さん審議会委員は、15期目でございます。

6 清藤一順（せいどう かずのり）委員

柏市大津ヶ丘にお住まいで、元千葉県立中央博物館の自然誌・歴史研究部長をされており、現在は八千代市立郷土博物館館長でいらっしゃいます。御専門は、考古学です。

市史編さん審議会委員は、4期目でございます。

7 中村智（なかむら さとし）委員

流山市西初石にお住まいでいらっしゃいます。公募により、委嘱をさせていただいた委員でございます。

市史編さん審議会委員は、1期目でございます。

8 堀部昭夫（ほりべ あきお）委員

東京都葛飾区にお住まいで、元千葉県立現代産業科学館副館長でいらっしやいますが、県立博物館の4館で館長を歴任されております。御専門は、考古学です。

市史編さん審議会委員は、8期目でございます。

9 村田一二（むらた かずに）委員

鎌ヶ谷市にお住まいで、我孫子市・鎌ヶ谷市・流山市などで小中学校長を歴任されております。御専門は考古学です。

鎌ヶ谷市史編さん審議会副委員長で、市史の執筆も手がけていらっしやいます。

市史編さん審議会委員は、5期目でございます。

10 山田友治（やまだ ともはる）委員

東京都江東区にお住まいで、元文化庁調査官・元東京工芸大学教授で、現在聖徳大学講師でいらっしやいます。本館がまだ準備室の時期に出向され、館の設立に携わっていただきました。御専門は考古学ですが、陶磁器をはじめとする有形文化財や芸術・文化に造詣が深くていらっしやいます。

市史編さん審議会委員は、5期目でございます。

（須田次長）

ありがとうございました。次に委員の皆様方から自己紹介をお願いいたします。名簿順をお願いいたします。

《委員自己紹介》

1 相原正義委員

流山市立博物館友の会の創立以来、約35年、地域のことにかかわってきた。

2 青柳孝司委員

広報の記事を見て応募した。銀行を退職依頼歴史にかかわっている。流山史跡ガイドの会で事実を追及している。

3 小川浩委員

約40年前、流山で民俗調査を開始し、市史では民俗編の刊行に携わった。

4 小疇尚委員

専門が地質学で歴史とは違うが、明治大学博物館館長を務めたこともあり、楽しくかかわっている。

5 下津谷達男委員

流山で文化財保護行政が始まる前、野田から来て東深井古墳群の調査などをした。15期もやってきたことに驚いている。

6 清藤一順委員

昭和40年代から千葉県のカ文化財保護に、平成4年からは博物館にかかわっている。委員の中では最年少なので若さを出していきたい。

7 中村智委員

旧新川村南の農家の二男坊、大学は化学専攻であるが、現在祭囃子の保存や、雅楽のしちりきに取り組んでいる。

8 堀部昭夫委員

千葉県退職後、八千代市史にかかわった。数年前大病を患ったが、元気になった。

9 村田一二委員

永く小中学校の教職にあり、東小・江戸川台小の校長を勤めた。教員という立場で、発言していく。

10 山田友治委員

博物館に準備室から関わった。現在は聖徳大学で教べんをとっている。

( 須田次長 )

ありがとうございました。

続きまして皆様の中から、会長・副会長を選出していただきたいと存じます。議事進行は会長が行いますが、会長・副会長ともに不在の状態でございますので、事務局長である小川館長が議長を代行いたします。小川館長よろしく願いいたします。

( 小川館長 )

議長を代行させていただきます、小川でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に従い会長・副会長を選出したいと思えます。立候補または推薦により決定したいと思えますが、委員の方から何か御意見はありますでしょうか。

(清藤委員)

引き続き、会長には小川委員、副会長には相原委員をお願いしたいと思えます。

(小川館長)

ただ今、清藤委員から発言がありました。ほかにございますでしょうか。

無いようですので、お諮りします。会長に小川委員、副会長に相原委員の推薦がありました、承認される方は拍手をお願いします。

拍手多数と認めます。

それでは流山市史編さん審議会会長に小川委員、副会長に相原委員が決定いたしました。

ここで私は、議長の役目を終わらせていただきます。

(須田次長)

小川館長、ありがとうございました。新会長・新副会長は、議長席へ移動ください。

新たに会長及び副会長が決まりましたので、ごあいさつを頂戴したいと思います。小川会長、よろしくお願いいたします。

(小川会長)

「ふるさと流山のあゆみ」刊行まで、相原副会長の助力を得て、がんばりたい。

(須田次長)

ありがとうございました。相原副会長、よろしく願いいたします。

( 相原副会長 )

まだ、委員になって日が浅いが、小川会長のもと、「ふるさと流山のあゆみ」刊行に向けて努力する。

( 須田次長 )

ありがとうございました。「流山市史編さん審議会条例」第6条第1項の規程によりまして、会議の議長は会長に務めていただく事となっておりますので、ここからは新会長に進行をお願いいたします。

( 小川会長 )

議事進行に先立ち、事務局に出席委員数の報告を求めます。

( 小栗次長 )

本日の会議につきましては、委員10名のところ全員のご出席を頂いておりますので、「流山市史編さん審議会条例」第6条第2項により会議が成立している事を申し添えます。

( 小川会長 )

会議成立ということですので、次第により議事を進行させていただきます。御協力をよろしくお願いいたします。

議題(1)平成26年度流山市史編さん事業について、事務局から説明願います。

( 小川館長 )

《平成26年度流山市史編さん事業について説明》

( 小川会長 )

只今、事務局より説明のありました平成26年度流山市史編さん事業について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

( 小川会長 )



恩田家目録は公開するのか。

(川根主任学芸員)

目録は恩田さんに渡した。公開については、今後の課題とする。

(下津谷委員)

恩田家文書は、寄贈か。期限付きの寄託か。

(川根主任学芸員)

来年3月末までの寄託です。

(小川会長)

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

無いようですので、次の議題に移ります。

(小川会長)

議題(2)『ふるさと流山のあゆみ』の経過と現状について、事務局から説明を願います。

(小川館長)

《会議資料に基づき、「ふるさと流山のあゆみの経過と現状について」説明》

(1) 経過

(2) 目次について(別紙目次のとおり)

第1章から第7章で構成、コラム32、各章の中扉裏面に地図、巻末に参考文献・資料提供者、執筆者一覧、関係者一覧を収録

(3) 原稿進捗状況について(別紙『ふるさと流山のあゆみ』原稿進捗状況のとおりに)

左に目次と同じ章・節を表記、右に執筆が終了しているか、審議会に諮ったか、修正は終了しているかを示す

23ある節の内、終了していないのは太枠で囲ってある、1章2節「狩猟・採集の時代」、同じく3節「米づくりのはじまり」、2章1節「古墳と古墳を造った人のムラ」で、91%が終了

(小川会長)

只今、事務局より説明のありました『ふるさと流山のあゆみ』の経過と現状について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

( 中村委員 )

目次と本文の題が異なるところがある。

( 川根主任学芸員 )

原稿の送付を急いだため、不一致があったことをお詫びします。

きちんと校正して、統一します。

( 小川会長 )

どちらが正しいのか。

( 小川館長 )

すでに目次は確定しているので、目次が正しい。

( 村田委員 )

第 1 章のタイトルが「掘り出された流山」となっている。第 2 章以下は時代がわかるが、「掘り出された・・・」では、第 2 章の古墳時代やそれ以降でも発掘によっている時代もあるので、おかしい気がする。

( 川根主任学芸員 )

章立ては博物館の常設展示にあわせた。常設展では「掘り出された流山」(先土器・縄文・弥生時代)「古代国家と流山」(古墳・奈良・平安時代)「武士と民衆」(中世)となっている。時代を明確にするために、この本の章タイトルを変更することは、御審議お願いしたい。

( 小川会長 )

このことについては、今まで議論しなかった。御審議により変更するのはやぶさかではないと思う。いかがか。

( 清藤委員 )

村田委員のいうとおりだが、この本を常設展の解説に使うのか。

( 川根主任学芸員 )

ある程度、常設展に近づきたい。

( 相原委員 )

常設展にあわせるのもいいが、これだけ異質な気がする。「掘り出した流山の」というのはどうか。

( 下津谷委員 )

今、新しいのを考えるのは無理。「掘り出された」のは古墳・奈良平安時代から鎌倉時代だってある。大きくかぶせるものとして、ひとひねり知恵をだしたらいいのではないか。

( 村田委員 )

「掘り出された原始時代の流山」のような言い方でよいのではないか。  
常設展とも整合させられる。

(川根主任学芸員)

他の市町村の例なども検討し、再度お諮りします。

(小川会長)

タイトルですので、本文とは異なりここだけ変えればよいので、ふさわしいのをご検討願います。

(堀部委員)

用語として「集落」「ムラ」「村」の使い分けの基準を読み手にわかるようにしておくべき。

(小川会長)

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

無いようですので、次の議題に移ります。

(小川会長)

議題(3)「第1章 掘り出された流山」の原稿について、事務局から説明を願います。

(小川館長)

《「第1章 掘り出された流山」の原稿について説明》

詳細は川根から説明いたします。

(小川会長)

今回の原稿について、再度説明をお願いいたします。

(川根主任学芸員)

それでは議題(3)「第1章 掘り出された流山」の原稿について、ご説明申し上げます。この章は「1 ローム層の中から」「2 狩猟・採集の時代」「3 米づくりのはじまり」の3つの節から構成されております。本日ご審議いただきますのは、「1 ローム層の中から」の原稿でございます。

執筆者は(財)千葉県教育振興財団の橋本勝雄さんでございます。唯一、外部に原稿執筆をお願いしたのものになります。

内容でございますが、まず旧石器時代の概要を説明し、次に近年発掘調査が行われました常磐自動車道関連遺跡、及びつくばエクスプレス関連遺跡について、「主要な遺物」と「調査の成果とその意義」について記述したものでございます。

本章につきましては、今後「2 狩猟・採集の時代」「3 米づくりのはじまり」の原稿執筆を進める予定であります。

ご審議をよろしくお願いいたします。

(小川会長)

只今、事務局から説明のありました「第1章 掘り出された流山」の原稿について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

《以下、指摘事項箇条書き》

このような一般向け、地域の冊子では、概説は前提的なもの、あるいは地域の資料では語れない場合であって、地域の遺跡・遺物を用いて述べるのが基本である。

地域の特性を強調するメリハリが必要である。一般的に書くと、近隣市の同様な書物と同じになってしまう。

旧石器時代を一般の方に語るには、どのような環境(植性・動物相・地質的なもの)の中で、こういった種類の石器がつくられ、どう移り変わり、どういう住まい、地域の集まりが形成していったのか、特に石器しかないの石器を中心に語る必要があるのではないか。

全般的に石器の用途などの説明がない。

専門用語が説明ない。

常磐道関連遺跡より前の概説のところ、地元の資料を使って説明して欲しい。(以上清藤委員)

最初の3～4ページはやわらかいが、だんだん難しくなっている。子供たちに何を理解させようとしているのか。原稿を読んでどういう状況だったかイメージすることが困難である。当初のコンセプトにあったかたちに手を入れていただきたい。(堀部委員)

日本全体のことで、「ふるさと流山」ではない。遺跡名が出てくるが、よくわからない。ひとつひとつの遺跡の特徴を教えてほしい。(青柳委員)

事務局はコンセプトをきちんと説明し、できれば中学・高校の教科書を読んでいただいたほうがよい。(小川委員)

他県の例示はいらない。(山田委員)

調査歴、常磐道やTXなどについて言及する必要なし。反対に第2図で常磐道やTXの遺跡が多いのは、ローム層の調査をしているのがこれらだけだということを遺跡の分布について誤解を与えないように、しっかり書くべき。(村田委員)

詳しすぎる。ほかの章とあまりに違う。もとの目次のように流山の遺跡をとりあげてもらいたい。(小川会長)

専門的すぎる。石器の種類と説明がない。専門用語はもちろん、「立地する」などの考古学的ないいまわしが多い。中学生にはわからない。(下津谷委員)

(小川会長)

委員のみなさんのご意見では、「ふるさと流山のあゆみ」のコンセプトを再度執筆者に説明し、中学生でもわかるように手を入れていただくということによろしいですね。

(堀部委員)

橋本さんは優秀な方なので、きちんと説明すれば対応していただけると思う。

(委員全員)

そのようにお願いしたい。

(川根主任学芸員)

わかりました。

(小川会長)

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。無いようですので、議題(4)「第2章 古墳と古代の村」の原稿について、事務局から説明を願います。

(川根主任学芸員)

それでは「第2章 古墳と古代の村」の原稿について、ご説明申し上げます。この章は「1 古墳と古墳を造った人のムラ」「2 『かつしかのこおり』の村」の2つの節から構成されています。本日ご審議いただ

きますのは、このうちの「2 『かつしかのこおり』の村」の原稿でございます。執筆者は私、川根でございます。

「奈良・平安時代の大集落」は加村台遺跡群の町畑遺跡について記述したものでございます。内容でございますが、律令制下の国郡里制についての概要、大嶋郷の戸籍からみた古代家族、それを念頭において町畑遺跡の集落の推移について分析を加えたものでございます。

コラム5「都からもたらされた古代貨幣」につきましては、市内から出土した皇朝十二銭について、解説したものでございます。

ご審議をよろしくお願いいたします。

(小川会長)

只今、事務局から説明のありました「第2章 古墳と古代の村」の原稿について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

《以下、指摘事項箇条書き》

地名、人名など必要なところにルビを入れる。初出にこだわる必要もない。高校の資料集を参考にしてください。(多数委員)

用語で分かりにくいもの「計帳」「土錘」「丸鞆」「巡方」などに解説(場合によっては図示)が必要。(多数委員)

図に縮尺と方位を入れる。(多数委員)

図や写真のキャプションをわかりやすくするとともに、本文を補足するように工夫する。(多数委員)

適切なところに小見出しをつける。(下津谷委員)

「稲作農耕」はわかりにくい。「稲作」でよい。(村田委員)

「比定」と「推定」の違いがわからない。(青柳委員)

鱈ヶ崎三本松古墳は市内唯一の前方後円墳か。東深井古墳群の中に帆立貝型の古墳があり、広い意味ではこれも前方後円墳ではないか。(青柳委員) 百力所めぐりにも帆立貝型を前方後円墳としている。(中村委員)

延喜式の年代が康保4年(957年)となっているが、ほかの書物では延長5年(927年)となっているので確認する。(青柳委員)

松戸市にも候補があるので流山の三輪茂侶神社を式内社と断定しないほうがよい。(相原委員)

下妻市が本文では下総国、図では常陸国にプロットされているので確認する。(相原委員)

(小川会長)

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。無いようですので、第2章については終了します。

時間が12時近くになってしまいました。議題(5)「第6章流山の明治・大正・昭和」のコラム、議題(6)「第7章変わりゆく流山」の原稿については、どういたしましょう。

(川根主任学芸員)

今日審議していただかなくても、時間的な余裕はあります。

(小川会長)

今日の資料に指摘事項を赤入れして、郵送するのはどうでしょう。

(委員)

了解。

記述の重複、同語反復、代名詞、「しかし」が多い。いちいち指摘できない。

(川根主任学芸員)

いちいちでなくても、わかるように書いていただければありがたい。

12月中旬までをお願いしたい。

(小川会長)

では、12月15日までとしましょう。

(川根主任学芸員)

新たな、原稿のコピーと返信用封筒をお送りしますので、よろしく願いします。

(小川会長)

長時間御審議いただきありがとうございました。

時間が足りなくなりましたが、御指摘が多かったということで、御了承お願いいたします。

これで平成26年度第1回流山市史編さん審議会を終了といたします。

以上

(閉会 午後0時05分)